

各関係機関長 殿

岡山県病害虫防除所長

病害虫発生予察情報について

病害虫発生予報第7号を下記のとおり発表したので送付します。

令和5年度病害虫発生予報第7号

令和5年9月27日  
岡 山 県

予報概評

作物名	病害虫名	発生時期	発生量
水 稻	トビイロウンカ	—	並
ダイズ	ハスモンヨトウ	—	<b>やや多</b>
果 樹	カメムシ類	—	<b>やや多</b>
キュウリ	褐斑病	—	並
キュウリ・ナス	ミナミキイロアザミウマ	—	並
アブラナ科野菜	ハクサイ白斑病	—	やや少
	ハクサイべと病	—	並
	軟腐病	—	<b>やや多</b>
	黒腐病	並	並
	コナガ	—	<b>やや多</b>
	ヨトウガ	—	並
	アブラムシ類	—	やや少
	モザイク病	—	<b>やや多</b>
	ハスモンヨトウ	—	<b>やや多</b>
	ハイマダラノメイガ	—	並
オオタバコガ	—	並	
キ ク	ナミハダニ	—	<b>やや多</b>
	オオタバコガ	—	並

## 1. 普通作物

### (水稲)

#### 1) トビイロウンカ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 9月20～21日の巡回調査(中南部地帯)における発生ほ場率は5.6%で  
平年(25.1%)より低かった。

イ. 赤磐市の予察灯における9月1半旬～4半旬の誘殺数は、45頭で平年  
(32.7頭)よりやや多かった。

ウ. 9月21日発表の季節予報によると、10月の気温は平年より高く、降水量はほ  
ぼ平年並とされており、発生をやや助長する条件である。

防除上の参考事項

ア. 令和5年度植物防疫情報第5号(7月27日発表)参照。

### (ダイズ)

#### 1) ハスモンヨトウ

予報内容

発生量 **やや多**

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップにおける9月1～4半旬の誘殺数は2,692頭  
で平年(2,125.1頭)よりやや多かった。

イ. 9月4～5日の巡回調査における白化葉(被害葉)の発生圃場率は17.1  
%で平年(10.4%)より高かった。

ウ. 9月21日発表の季節予報によると、10月の気温は平年より高く、降水量はほ  
ぼ平年並とされており、発生をやや助長する条件である。

防除上の参考事項

ア. 令和5年度植物防疫情報第7号(9月12日発表)参照。

## 2. 果樹(全般)

### 1) カメムシ類

予報内容

発生量 **やや多**

予報の根拠

ア. 赤磐市の予察灯における9月1～4半旬の誘殺数は、チャバネアオカメム  
シは112頭(平年69.8頭)、クサギカメムシは38頭(平年3.4頭)、ツヤ  
アオカメムシは551頭(平年74.0頭)といずれも平年より多かった。

防除上の参考事項

ア. 9月下旬以降主要種はツヤアオカメムシである。

## 3. 野菜

### (キュウリ)

#### 1) 褐斑病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 9月19日の巡回調査によると発生圃場率は100%で、平年(89.3%、過去10年のうち7年間は100%)並であった。

イ. 9月21日発表の季節予報によると、10月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、発病をやや助長する条件である。

(キュウリ、ナス)

1) ミナミキイロアザミウマ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 9月19、20日の巡回調査によると、発生量は平年並であった。

イ. 9月21日発表の季節予報によると、10月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、発生をやや助長する条件である。

(アブラナ科野菜)

1) ハクサイ白斑病

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 9月19、20日の巡回調査では発生を認めず、発生圃場率は平年(24.7%)より低かった。

イ. 9月21日発表の季節予報によると、10月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並みとされており、発病を助長する条件ではない。

防除上の参考事項

ア. 秋作では生育中期から結球期に初発生することが多いので、初期防除を徹底する。

2) ハクサイべと病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 9月19、20日の巡回調査では発生を認めず、発生圃場率は平年(9.6%)並であった。

イ. 9月21日発表の季節予報によると、10月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並みとされており、発病を助長する条件ではない。

3) 軟腐病

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 9月19、20日の巡回調査によると、ダイコンでは発病圃場率は16.7%で平年(22.9%)並であった。ハクサイでは発生圃場率は10.0%で、平年(1.3%、過去10年のうち9年間は0%)より高かった。

イ. 9月21日発表の季節予報によると、10月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並みとされており、発病をやや助長する条件である。

4) 黒腐病

予報内容

発生時期 並

発生量 並  
予報の根拠

ア. 9月19、20日の巡回調査によるとキャベツでは発生を認めず、平年（3.3%、過去10年のうち9年間は0%）並、ハクサイでは平年同様発生を認めなかった。

イ. 9月21日発表の季節予報によると、10月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並みとされており、発病をやや助長する条件である。

5) コナガ

予報内容

発生量 **やや多**

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップにおける9月1～4半旬の誘殺数は1頭で、平年（1.9頭）並であった。

イ. 9月19、20日の巡回調査によるとダイコンでは発生圃場率が100%で平年（46.4%）より高く、キャベツでは0%で平年（6.0%）並、ハクサイでは0%で平年（1.0%）並であった。

ウ. 9月21日発表の季節予報によると、10月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、発生をやや助長する条件である。

6) ヨトウガ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 9月19、20日の巡回調査によると、発生量は平年並であった。

イ. 9月21日発表の季節予報によると、10月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、発生をやや助長する条件である。

7) アブラムシ類とアブラムシ伝搬性モザイク病

予報内容

発生量 アブラムシ類 やや少  
モザイク病 **やや多**

予報の根拠

ア. 赤磐市の黄色水盤における9月1～4半旬の飛来数は675頭で平年（1187.3頭）より少なかった。

イ. 9月19、20日の巡回調査によると、ダイコンでは発生圃場率が0%で平年（7.4%）よりやや低く、キャベツでは0%で平年（1.7%）並、ハクサイでは0%で平年（0%）並であった。

モザイク病は、ダイコンでは発生圃場率50.0%で、平年（13.7%）より高く、ハクサイでは発生を認めず、発生圃場率は平年（0.9%）並であった。

ウ. 9月21日発表の季節予報によると、10月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、発生をやや助長する条件である。

8) ハスモンヨトウ

予報内容

発生量 **やや多**

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップにおける9月1～4半旬の誘殺数は2,692頭で平年（2,125.1頭）よりやや多かった。

イ. 9月19、20日の巡回調査によると、発生量は平年並であった。

ウ. 9月21日発表の季節予報によると、10月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、発生をやや助長する条件である。

防除上の参考事項

ア. 令和5年度植物防疫情報第7号（9月12日発表）参照。

9) ハイマダラノメイガ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 9月19、20日の巡回調査によると発生量は平年並であった。

イ. 9月21日発表の季節予報によると、10月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、発生をやや助長する条件である。

10) オオタバコガ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップにおける9月1～4半旬の誘殺数は1頭で、平年（2.2頭）並であった。

イ. 9月19、20日の巡回調査によると、発生量は平年並であった。

ウ. 9月21日発表の季節予報によると、10月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、発生をやや助長する条件である。

4. キク

1) ナミハダニ

予報内容

発生量 **やや多**

予報の根拠

ア. 9月19、20日の巡回調査によると発生圃場率は28.6%で、平年（7.3%）よりやや高かった。

イ. 9月21日発表の季節予報によると、10月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、発生をやや助長する条件である。

2) オオタバコガ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップにおける9月1～4半旬の誘殺数は1頭で、平年（2.2頭）並であった。

イ. 9月19、20日の巡回調査によると、発生量は平年並であった。

ウ. 9月21日発表の季節予報によると、10月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、発生をやや助長する条件である。

この情報は、岡山県病害虫防除所ホームページでも公開しています。アドレスは、<http://www.pref.okayama.jp/soshiki/239/> です。

